

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは・・・？

平成29年に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、「幼児教育施設として共有すべき事項」として「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。また、小学校においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫するなど、幼児期からの子どもの発達と学びの連続性を確保することが求められています。

健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



巧技台の上からジャンプ！



プールに入るときは、少しずつ体を水に慣らしてから入ります。



芝滑り 「手をつないで滑るとおもしろい～」

小学校の生活や学習において

こうした幼児期の経験は

時間割を含めた生活の流れが分かるようになると、次の活動を考えて準備をしたりするなどの見通しをもって行動したり、安全に気を付けて登下校しようとしたりする姿につながります。

また、自ら体を動かして遊ぶ楽しさは、小学校の学習における運動遊びや、休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごすことにつながり、様々な活動を十分に楽しんだ経験は、小学校生活の様々な活動を十分に楽しんだ経験は、小学校生活の様々な場面において伸び伸びと行動する力を育んでいきます。



自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しみ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



一輪車や竹馬、縄跳びなど…
自分で目標を決め、繰り返し
取り組みます。



「ぼくたちが運ぶよ」
進んで片付けをしています。



プール遊びの準備
「自分で膨らませた浮き輪で遊ぶの楽しすぎる」
自分で浮き輪に空気を入れて準備をしています。

幼児期に育まれた自立心は



↓ 小学校の生活や学習において

自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿や生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿、自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿など、日々の生活が楽しく充実することにつながっていきます。

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



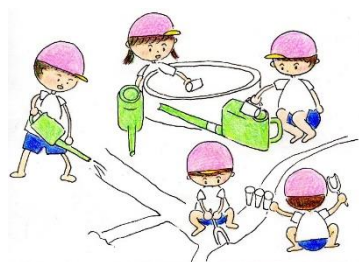
おすし鬼ごっこ
「どうやって遊んだら楽しいかな？」
友達と相談しています。



「船を作ろう！」
友達と協力して積み木を運んでいます。



「まだつながらないな」「もっと下に掘る？」
試したり相談したりしながらトンネルをつくっています。



幼児期に育まれた協同性は



小学校の生活や学習において

学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、教師や友達と協力して生活したり学び合ったりする姿につながっていきます。

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



順番に並んで遊びます。



遊びを重ねていくうちに、ルールを守って遊ぶと楽しいことに気付いていきます。



幼稚園の絵本の貸出の仕方を知り、自分で選んだ絵本を借ります。



こうした幼児期の経験は



小学校の生活や学習において

初めて出会う人の中で、幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする姿へとつながっていきます。

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



きらきら菟ニクラブの方との交流
「かたたたき」の歌に合わせながら
肩たたきをしました。



城南荘喜老会の方との交流（七夕）



茶業センターに行って茶摘み体験をしました。

こうした幼児期の
身近な社会生活との
関わりは

↓
小学校の生活や学習において



相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりする姿につながります。また、地域行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深めることは、地域への親しみや地域の中での学びの場を広げていくことにつながっていきます。

思考力の芽生え



「ここに積み木を置いた方がいいね。」
友達と考えながら、コースを作っています。

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



カキの木にアリがいるのを見つけ、「アリからぼくたちのカキを守ろう」「でも全部袋に入れるとアリが食べるカキがなくなっちゃう」という子どもたちの声。そこで皆で考えて下にあるカキを残すことにしました。



「このコース、試してみよう」
友達と一緒に考えたり、試したりしながら遊びを進めています。

幼児期の思考力の芽生えは



小学校の生活や学習において

出会う新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わることに繋がります。また、探究心をもって考えたり試したりする経験は、主体的に問題を解決する態度へとつながっていきます。

自然との関わり

・ 生命尊重



カタツムリの飼育
「ニンジン食べてる」「水もあげよう」

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に
する気持ちをもって関わるようになる。



「ピピピ、四つ葉見つけた」
自分たちでつくった四つ葉レーダーで
四つ葉を探しています。



「タンポポの綿毛、飛んでいけ！」

こうした幼児期の経験は



小学校の生活や学習において

自然の事物や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしていく基盤となります。さらに、実感を伴って生命の大切さを知ることは、生命あるものを大切にし、生きることのすばらしさについて考えを深めることにつながっていきます。



数量や図形,標識や文字 などへの関心・感覚



「1, 2, 3・・・」5個ずつビワを袋に入れて、持ち帰れるようにしました。

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



「博物館をつくっているねん」
自分で見つけた石や葉を並べています。



「こっちが重いかな？」
秤を使って幼稚園で収穫したサツマイモの重さを比べようとしています。

こうした幼児期の数量や図形、標識や文字 などへの関心や感覚は



小学校の生活や学習において

関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながるとともに、学んだことを日常生活の中で活用する態度にもなるものです。

言葉による伝え合い



お店屋さん

「どれにしようかな」「どれか一つ選んでね」

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



「おうちの人と出かけたよ」
夏休みの絵日記を見ながら、皆の前で話をしています。



降園前のひと時：絵本の読み聞かせ

こうした幼児期の

言葉による伝え合いは



小学校の生活や学習において

友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿につながっていきます。特に、戸惑いが多い入学時に自分の思いや考えを言葉で表せることは、初めて出会う教師や友達と新たな人間関係を築く上でも大きな助けとなります。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



好きな音楽に合わせて、一緒に踊ろう！



「ぼくたち、海賊だ！」

身近な用具などを使って、イメージしたものを表現しています。



ぬるぬるぺたぺた・・・「気持ちいい！」

心動かす色々な素材や用具に触れ、表現しています。



こうした幼児期の経験は



小学校の生活や学習において

感性を働かせ、表現することを楽しむ姿につながります。これらは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になります。また、臆することなく自信をもって表現することは、教科等の学習だけでなく、小学校生活を意欲的に進める基盤ともなっています。